

17:00-17:15

開会の辞 西尾治子(日仏女性研究学会代表)

共催の挨拶 ベルナール・トマン(日仏会館・フランス国立日本研究所)

趣旨説明 中山信子(早稲田大学演劇博物館)

2021年

国際女性デー
記念シンポジウム

第一部 [17:15-18:20]

モダンガール、ジェンダー規範を逸脱した女たち

司会 木村信子(東洋大学人間科学総合研究所)

1. 基調講演
1920-30年代の日本の風刺画に見るモダンガール
サンドラ・シャル(ストラスブール大学)
2. 「魔女」にみる日仏の女性表象の変遷
—フェミニズムとポップカルチャーをめぐって—
新行内美和(日仏女性研究学会)

休憩 [18:20-18:30]

第二部 [18:30-20:00]

モダンガール、新天地を切り拓いた女たち

司会 西尾治子

1. 建築家 早間玲子氏の夢と奮闘
吉川佳英子(愛知工業大学)
2. 永瀬清子 詩人のたたかい
志田道子(フリーライター)
3. イレーヌ・ネミロフスキー
『孤独のワイン』における自画像
秦佳代(北海道大学大学院文学研究科)

第三部 [20:00-20:30]

登壇者及び参加者との討論会

司会 中山信子

閉会の辞 棚沢直子(フランス研究者)

モダン ガール、 時代を 牽引した 女たち

3月6日(土)

17時-20時30分

zoomによる
オンライン開催

使用言語:日本語

シンポジウムの開催の主旨

いつの時代にも、時のジェンダー規範を逸脱した女たちがいた。彼女たちは時に「モダンガール」と呼ばれ揶揄や蔑視の対象となり、時には「魔女」と呼ばれ迫害された。また一方でジェンダー規範を逸脱した女たちは、個人としての生き方を追求し、新しい天地を切り拓いた女たちでもあった。

本シンポジウムでは、第一次世界大戦後の近代技術の発展の時代に「モダン」と言われた女たち、また太古の昔から「魔女」として疎外されてきた女たちが、大衆文化の中でどのように表象されたかを考察する。そして20世紀の日本とフランスで独自の世界を生きた3人の女性の肖像(ポルトレ)をたどり、それぞれの時代の魅力的な「モダンガール」について、5人の登壇者と共に考えてみたい。

要事前申し込み >>> [ここをタップ](#)